

「地域海岸」及び「設計津波の水位」の設定方法

海岸堤防等の海岸保全施設の整備に必要となる「地域海岸」及び「設計津波の水位」の設定の考え方（作業手順）を示す。

1. 設計津波の設定単位

設計津波は、地域海岸ごとに設定することを基本。

【地域海岸】沿岸域を「湾の形状や山付け等の自然条件」等から勘案して、一連のまとまりのある海岸に分割したもの。

2. 設計津波の水位の設定方法

- ① 過去に発生した津波の実績津波高の整理
 - ✓ 痕跡高調査や歴史記録・文献等を活用
- ② 過去に発生した津波の実績津波高の整理
 - ✓ 十分なデータが得られない時には、シミュレーションを実施しデータを補完。
- ③ 設計津波の対象津波群の設定
 - ✓ 地域海岸ごとに、津波高のプロット図（グラフ）を作成
 - ✓ 一定の頻度（数十年から百数十年に一度程度）で到達すると想定される津波の集合を、対象津波群として選定する。
- ④ 設計津波の水位の設定
 - ✓ 上記で設定した対象津波群の津波を対象に、隣接する海岸管理者間で十分調整を図ったうえで、設計津波の水位を海岸管理者が設定。
 - ※堤防等の天端高は、設計津波の水位を前提として、環境保全、周辺景観との調和、経済性、維持管理の容易性、施工性、公衆の利用等を総合的に考慮して海岸管理者が適切に設定。

現在の検討段階

静岡県における地域海岸の設定（案）

前回「湾の形状や山付け等の自然条件」、「文献や被災履歴等の過去に発生した津波の実績津波高さ及び既往のシミュレーションの津波高さ」から、同一の津波外力を設定しうると判断される一連の海岸線を14の地域海岸に区分した。

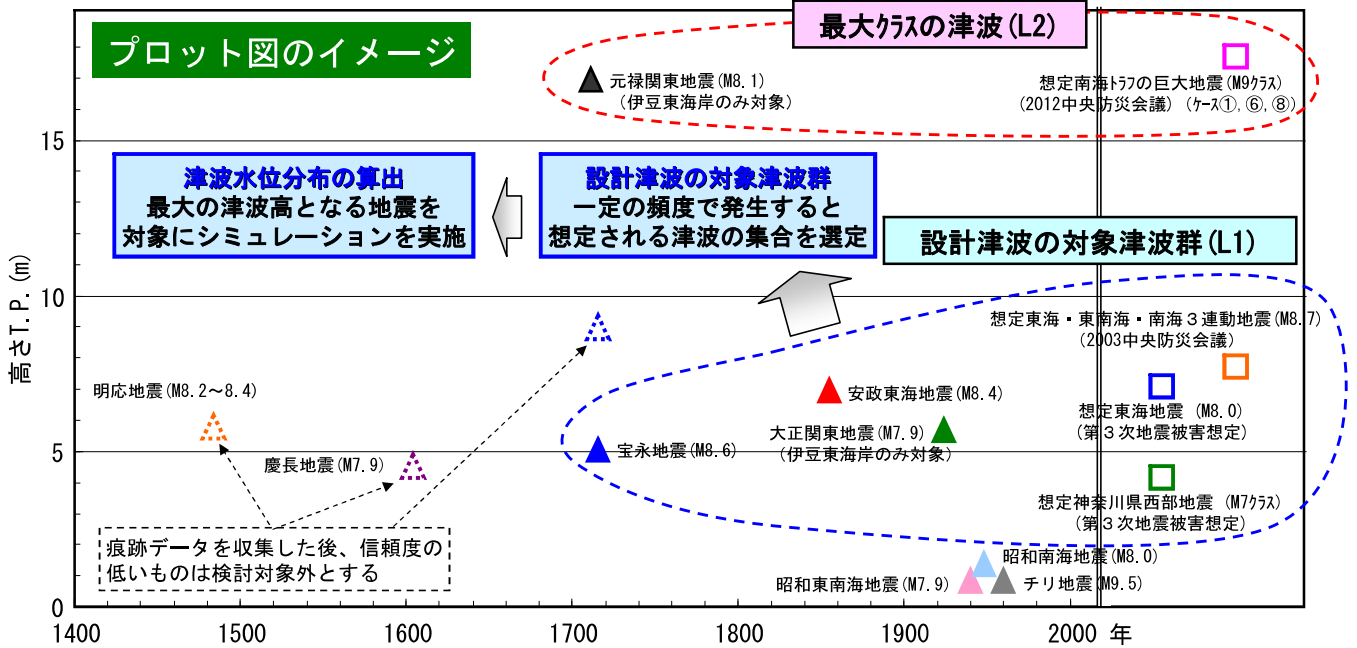


【地域海岸の名称】

①	熱海
②	伊豆東
③	伊豆南
④	伊豆西
⑤	西浦
⑥	内浦
⑦	江浦湾
⑧	沼津
⑨	富士
⑩	清水港
⑪	静岡
⑫	志太榛原
⑬	御前崎
⑭	遠州灘

設計津波の対象津波群の設定（案）

地域海岸毎に、「**整理された実績津波高**」及び「**既往シミュレーションの津波高**」を用いて津波高のプロット図（グラフ）を作成。



※明応、慶長等の地震については、今後の新たな知見等の蓄積をもって見直しを行う。

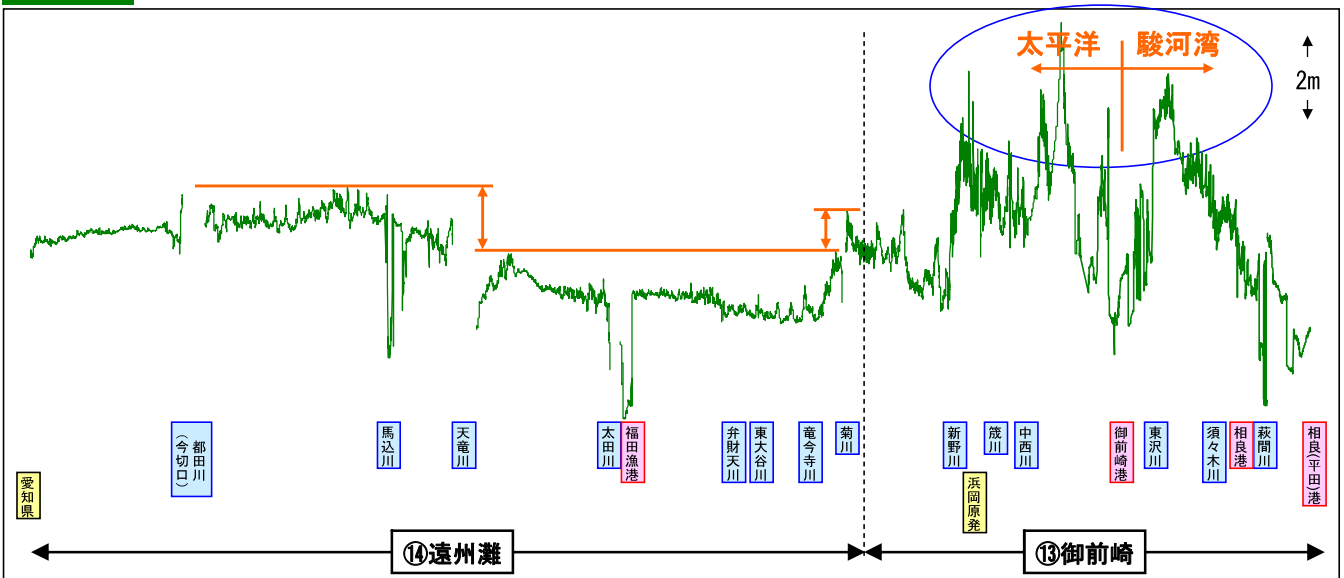
※既往のシミュレーションの津波高については、第4次地震被害想定における想定津波高を反映させる。(南海トラフの巨大地震、元禄関東地震、3連動地震、東海地震、安政東海地震、大正関東地震)

3

津波シミュレーション（試算）の結果

遠州灘及び駿河湾を対象に、「**想定東海・東南海・南海3連動地震**」を外力として、内閣府モデルを用いて、**津波シミュレーション**を試行した。

遠州灘



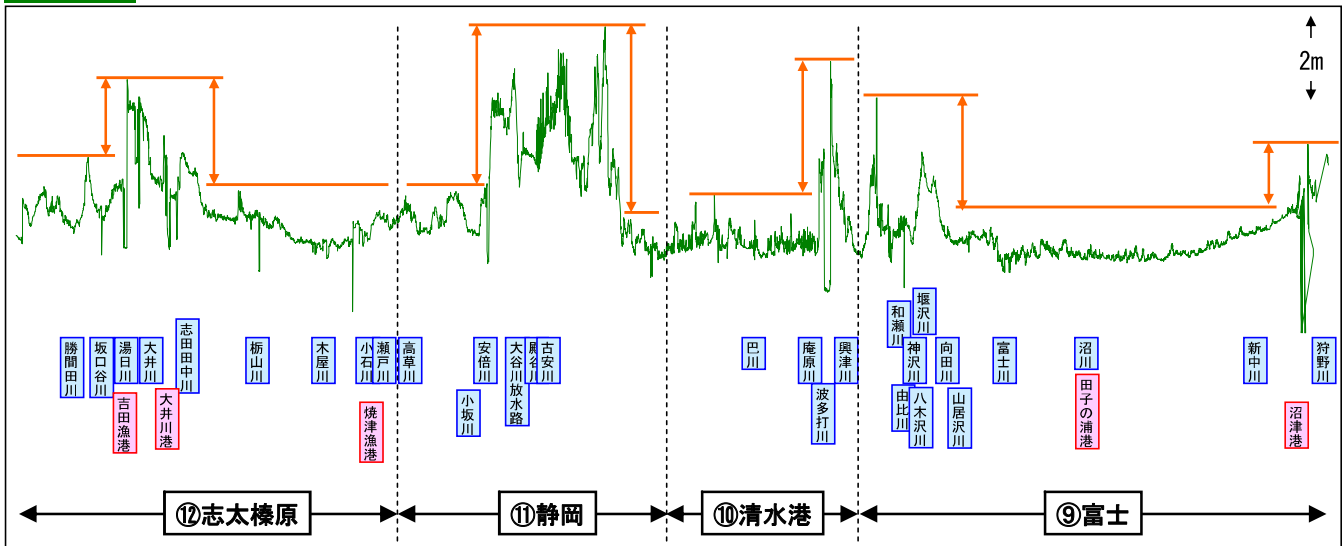
- ✓ ⑭ 【遠州灘】：天竜川・菊川付近を境に、津波高に高低差が生じている。
- ✓ ⑬ 【御前崎】：太平洋側、駿河湾側ともに、津波高は同じように高い。

4

津波シミュレーション（試算）の結果

遠州灘及び駿河湾を対象に、「想定東海・東南海・南海3連動地震」を外力として、内閣府モデルを用いて、津波シミュレーションを試行した。

駿河湾



- ✓ ⑫【志太榛原】：吉田漁港付近を境に、津波高に高低差が生じている。
- ✓ ⑪【静岡】：安倍川付近を境に、津波高に高低差が生じている。

5

津波シミュレーションの試算結果を受けて

「地域海岸の設定」は、以下の観点を踏まえ、引き続き検討を進めていく。

● 自然地形の捉え

- ✓ 津波高や津波の進行方向に影響を及ぼす**海域地形の変化**（遠浅、急深、トラフからの距離）

● 著しく高く算出された津波高値の取扱い

- ✓ 背後の**土地利用状況**（人口・資産の集積状況）
- ✓ 背後の**地形状況**（海崖部に津波高値の棄却）